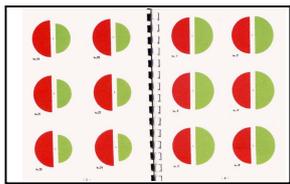


不等像の検査 (NEW ANISEKONIA TESTS)



不同視の可能性のある症例に対して近視の不等像視が許容範囲を超え、両眼融像(立体視)が損なわれないかの把握(特に眼鏡・CLの装用時や片眼無水晶体眼等の不等像視の検査)

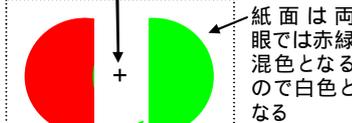
準備物 赤緑眼鏡(必ず付属のものを使用すること)・New Aniseikonia テスト



距離は厳密でなくとも良いが約 40cm にて屈折異常がより正視に近い方の眼に緑ガラス(赤半月が見えるように)、他眼に赤ガラス(緑半月が見えるように)を装用させて、紙面と視線が垂直になるようにして 0 の図を見させる

赤半月を基準にするが、屈折異常が不明の場合どちらに装用しても可。また裸眼でも眼鏡でも検査OKだが、眼鏡を装用する時は赤緑眼鏡を外側に。度が入っていると頂間距離の影響が出るので。

両眼で見える部分。(融像図形)両半月の位置のずれを防ぐ為。ただし斜視は不可。



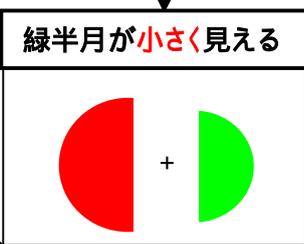
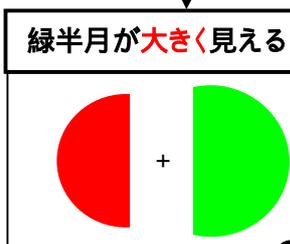
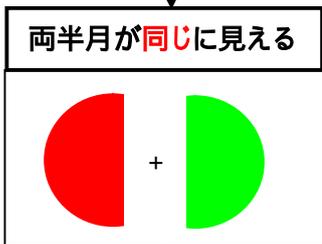
抑制がかかり易いので検査前、各眼を遮閉して各々半月が見えているか確認すること。

YES

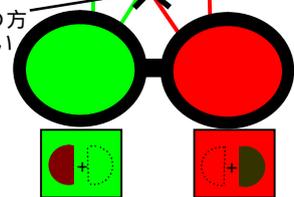
両半月が同じ大きさに見えるか?

NO

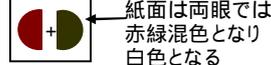
* 右眼に赤ガラス(緑半月)装用の場合



片眼だとこの矢印の方は同化して見えない



実際の見え方



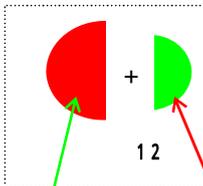
赤ガラスからの赤光は白い紙が全体的に赤色となり緑半月は赤色と混ざって黒色となる。そして赤半月は紙の赤色と同化して消える。他眼も同様である。紙面は赤と緑が混ざって白色となる。この表の場合、常に赤半月(緑ガラス装用眼)を基準とするので注意。

不等像 0%

緑半月(赤ガラス装用眼)の像が大きい

緑半月(赤ガラス装用眼)の像が小さい

例) 右眼 +12% の不等像



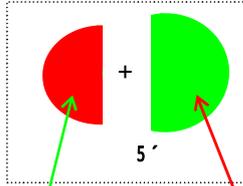
1 ~ 24' まで順次各図を見せて、両半月が同じに見えるまで続ける

1' ~ 24' まで順次各図を見せて、両半月が同じに見えるまで続ける

実際はだんだん緑半月が小さくなるよ。

実際はだんだん緑半月が大きくなるよ。

例) 右眼 -5% の不等像



12 で同じになった!

5' で同じになった!

同じ大きさに見える範囲を で表記する場合もあり。

その数字が緑ガラス装用眼(赤半月)を基準とした赤ガラス装用眼の不等像(単位は%)

記載例) New Aniseikonia Tests(NAT)
R: +12% (赤ガラス眼)

記載例) New Aniseikonia Tests(NAT)
R: -5% (赤ガラス眼)

判定基準)

許容範囲: 通常 5 ~ 7%

不同視によって生じる不等像視は、軸性(主に先天性)不同視に対しては眼鏡が適し、屈折性に対してはコンタクトレンズが適する、と従来は言われていたが、所先生によれば最新の情報として補償効果により軸性の場合でもCLが良いとのこと。

注意!!

検査法ハンドブック第4版によれば、不等像の取り扱い規約によれば、何%拡大したら等しい大きさになるかで本来表示するのでマイナス表示はない。上の場合、通常R5%と表示される。

注意!!

検査法ハンドブック第4版によれば、上の場合縮小する方法をとっているが、不等像の取り扱い規約では何%拡大したら等しい大きさになるかで本来表示するので規約とは違っている。

判定例)

両眼視が出来ない可能性あり

許容範囲である

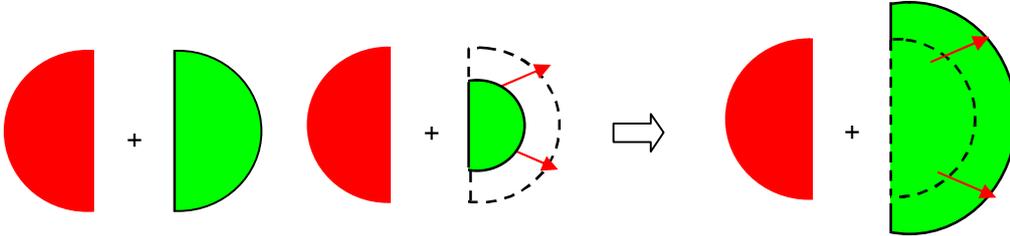
自分の結果を書いておこう!



New Aniseikonia テストの場合、常に同じ大きさ(赤半月)を基準としての拡大・縮小率で表すが、規約では常に大きく見える方を基準に小さく見える方の拡大率だけで表示するので、基準の大きさが一定ではなく、New Aniseikonia テストの縮小率の数値は規約の数値とは違ってしまおうと思う。

New Aniseikonia テストの場合

赤ガラス装用眼(緑半月)の像が小さく見える場合

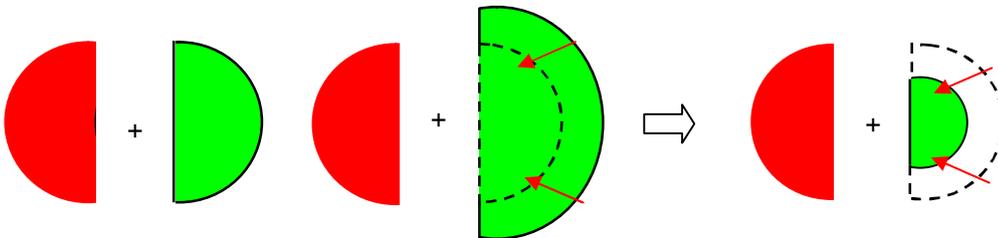


実際の図

被検者の見え方

実際は基準の大きさ(赤半月)から拡大していった、同じ大きさとなる緑半月を調べる

赤ガラス装用眼(緑半月)の像が大きく見える場合



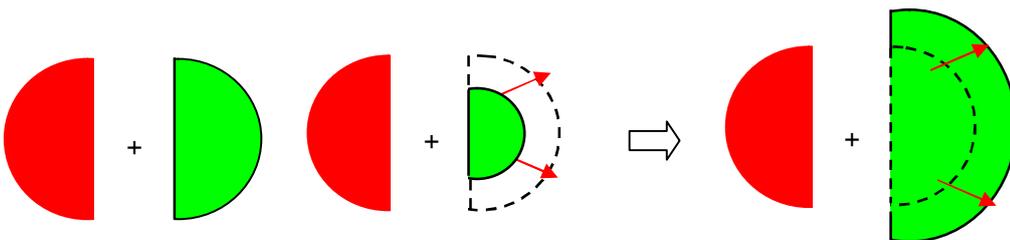
実際の図

被検者の見え方

実際は基準の大きさ(赤半月)から縮小していった、同じ大きさとなる緑半月を調べる

常に像が大きく見える方を基準とした場合

赤ガラス装用眼(緑半月)の像が小さく見える場合

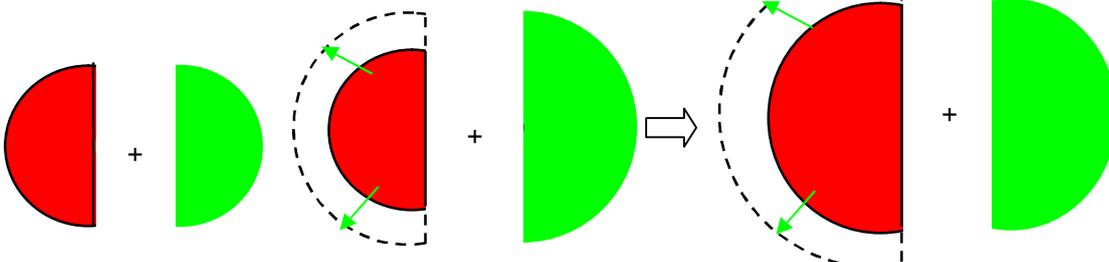


実際の図

被検者の見え方

上記と同じで基準の大きさ(赤半月)から拡大していった、同じ大きさとなる緑半月を調べる

赤ガラス装用眼(緑半月)の像が大きく見える場合



実際の図

被検者の見え方

基準の大きさ(緑半月)から拡大していった、同じ大きさとなる赤半月を調べるのが規約である